

羅 針 盤			方 策		点検・評価	達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目			自己評価	外部アンケート等		
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	多くの選択科目を設定している教育課程に満足している生徒が75%以上である。	○学校設定科目等を活用し、生徒が意欲的に取り組める教育課程を編成する。	A	A	A	選択科目が多く設定されている現行の教育課程や習熟度別・少人数制の授業において、概ね満足している生徒は9割を超えた。また、学校が好きだと感じている生徒も8割を超えている。一方で、先を見据えて計画的に考え、行動することができている生徒や主体的に学習活動に取り組み、課題解決のための能力が得られている生徒の割合は多くはなかった。次年度、学習活動での主体的な取り組みにおいては、職員研修等で共有した生徒のエージェンシー育成の視点からみられた課題に対する具体的な方策を踏まえた授業の工夫・展開を実践していきながら教科の枠を超えて職員間で共有を図っていきたい。また、生徒の計画性においては、今来手帳の有効かつ効果的な活用を促しながら、先を見据えた行動に移せるよう生徒の自己成長力の育成に努めていく。	今来手帳を有効に活用することができればよいが、手帳を書くという習慣がついていない生徒にとっては難しい。効果的に活用している生徒の手帳を提示していることは不慣れな生徒にとっての一助となると思う。系列間の連携は新田暁高校の良さを生み出している。連携を進めていくうえで、職員も連携することが大切である。また、生徒には様々なことにチャレンジをさせる。新しいことに挑戦すると失敗もあるが、その中から多くのことを学び取り、人としての引き出しを増やして欲しい。
		習熟度別授業や少人数授業に満足している生徒が75%以上である。	○生徒の実態に合わせたきめ細やかな指導を行い、生徒が主体的・意欲的に取り組める授業を展開する。	A	A	A		
		先を見据えて計画的に考え、行動することができている生徒が70%以上である。	○今来手帳を活用させ、振り返りを行うとともに計画を立て行動できるよう力が身に付くよう指導を行う。	C	B	C		
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	学習に対する達成感・満足感をもっている生徒が75%以上である。	○授業アンケートを活用し、生徒の実態を踏まえ、到達度に応じた学習指導を行う。	B	B	B	学習に対する満足感・達成感をもっている生徒や授業の内容や進度に対して適切であると感じている生徒の割合は多い結果となったが、家庭での学習習慣につながっていないという実態がアンケート結果からみられた。今来手帳を有効的に活用し、定期試験に向けた学習計画を丁寧に指導するとともに、課題の出し方などを工夫しながら家庭学習においても満足感や達成感が得られるよう取り組んでいく。また、保護者に対し、家庭で学習するという環境づくりにも協力していただけるよう働きかけていきたい。	家庭での学習習慣につなげ、定着を図ることは簡単ではないと思うが、習慣化できている生徒や成果として現れている生徒がどう取り組んでいるのかというモデルを示しながら学習意欲の向上につなげてほしい。また、環境づくりに関しては、保護者の理解・協力を得ながら築けていけるとよい。
		定期試験前や試験中の家庭学習時間が1日当たり1時間以上の生徒が60%以上である。	○試験時間割の発表に合わせ、対策問題や学習予定など生徒が計画的に取り組む環境を作る。	C	C	C		
	3 適正な指導計画に基づいた授業展開がなされていますか。	授業の内容及び進度が適切であると思っている生徒が70%以上である。	○授業アンケートを活用し、生徒の実態に合わせた授業を実施する。	A	A	A		
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	職員会議や学年会議において、生徒に関する情報交換を月に4回程度実施している。	○学年会議、分掌会議を定期的開催するとともに、会議の議事録を回覧して職員全体で情報を共有する。	B	-	B	校則の理解については生徒・保護者ともに90%を超えている。ただその理解に対して行動がともなわない生徒や頭髪指導が厳しすぎると指摘する保護者もいるので、身だしなみを整える意義や、地域社会に対する本校の位置づけなど、丁寧に説明していききたい。欠席・遅刻・早退については、欠席が昨年度よりも若干増加したが、遅刻・早退は減少している。今年度は欠席や遅刻の多い生徒に対しては、その原因や理由をあげさせ、そのマイナス点や改善方法を生徒同士で話し合う機会を設けた。時間を守ることで簡単に休まないことに対し、粘り強く指導していきたい。生徒の情報共有については運営委員会や学年会議の資料を回覧することで頻繁に行うことができた。また気になる生徒がいればすぐに学年主任と生徒指導主事との間で情報共有を行い、管理職への報告も行うことができた。いじめについては、訴えがあればすぐにいじめ対策委員会を立ち上げ迅速に対応することができたが、まだ解消していない事案もあるのできちんと対応していききたい。また今年度は、副担任面談やちょこっと面談を行い、担任以外の職員も生徒と関わりやすくする環境づくりを行った。面談やアンケートを通して得た情報はすぐに関係職員の間で共有し、迅速に対応することができた。次年度も複数の職員で生徒を観察し、生徒の小さな変化を見逃さない体制を作っていきたい。健康診断の結果を家庭で話し合っている傾向ではあるが、眼科37%、歯科38%であり、目標である受診率が70%以上には届いていないという現状である。生徒たちには定期的に受診を促してはいるものの、勧告に従って行動に移すことができないことが目標達成に至らない原因であるため、保護者への発信もきめて受診率が目標を上回るよう対策を再検討していききたい。清掃活動においては、大掃除の重点項目等、日頃から環境を整える意識を高めていく必要がある。清掃用具の不足がないように定期的に確認したり、補正したりすることができた。今後も清掃活動の活性化を図っていききたい。また、学校の敷地内においての安全点検に尽力し、早急対処を心がけた。保健委員の活動を通して、基本的な生活習慣のあり方を見直すことができた。知識を深めたりすることができたので、今後も保健委員の活動から生徒たちへの伝達を大切に、活動内容を充実させていききたいと思う。	欠席や遅刻を改善するための1つの方法として、欠席や遅刻の原因は何なのか。また、その改善方法などを生徒同士で話し合わせる機会を設けたことはよいと思う。その成果が少なからず数値としても出てきているのではないかと感じた。いじめにおいても、より多くの先生方に関わっていただけたことで細かな情報共有することができた。引き続き、丁寧な指導をお願いしたい。生徒の受診率を上げることは容易ではないが、今年度みられた課題を次年度以降に活かすとともに、家庭での理解や協力体制を得る必要がある。
		校則をきちんと理解している生徒が90%以上である。	○あいさつと服装頭髪を整えることをはじめ、HRや学年・全校集会等で規律を守ることの大切さ、集団生活でのルールやマナーについて呼びかける。	C	B	B		
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的にを行っていますか。	学校生活での悩みを教員やスクールカウンセラー、友人に相談できると思っている生徒・保護者が80%以上である。	○教育相談体制の確立と、二者面談週間や教育相談週間の充実を通して、相談しやすい雰囲気づくりを心がける。	B	B	B		
		学校全体でいじめの発生防止に努め、いじめの解消率が100%である。	○様々な教育活動の中で生徒にいじめ防止について訴え、校内巡視等を通して生徒観察を行うとともに、面談・アンケート等を通して早期発見・解消を図る。	B	B	B		
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	健康診断の結果を家庭で話し合い、受診率が70%以上である。	○三者面談で治療勧告書を配付し、家庭で話し合うきっかけをつくる。また、保健だより等を通して呼びかける。	C	B	C		
		清掃に積極的に取り組んでいる生徒が80%以上である。	○箇々の清掃活動や日々の行動について、日常生活の中で指導・助言する。 ○清掃用具を充実させ、大掃除においては重点項目を設定することで、清掃を積極的に行える体制を整える。 ○保健だより等を通して基本的な生活習慣の重要性を伝えるとともに、保健委員会の活動を通して生徒からの呼びかけを行う。	C	B	B		
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	進路学習について、内容および回数が適切と感じている生徒が80%以上である。	○学年団との連携を密にし、LHRにおける進路学習の充実を図る。 ○学年別進路ガイダンスを適切な時期に実施する。	B	B	B	学年団との連携により、進路指導の推進に取り組んできた。また総合学科推進部と連携し、「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」等の授業において、進路指導部の視点を反映させることができた。学習会等は、生徒の実態に応じた柔軟な運用が基礎学力の向上につながることが確認できた。次年度は、総合学科推進部との協働体制をさらに強化し、授業を通じたキャリア教育へより積極的に関わりたい。そして1年次より「学校生活への真摯な取り組みが進路実現の土台となる」という意識付けを徹底していききたい。学習会や課題配信は、教員間の共通理解のもと、生徒の負担や実効性を考慮した最善の方策を検討・実施していききたい。	これまで実績のなかった公務員に3名合格したことは素晴らしい。先生方の指導の賜物だと思う。今後も生徒に寄り添い、生徒の実態に合わせた進路指導を模索して欲しい。また、生徒自身の進路希望が叶うよう、日々の学校生活にも注力していただきたい。
		8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が80%以上である。	○総合学科推進部と連携を図り、生徒の自己教育力を育成し、進路実現につなげる。 ○学習会や週末課題の配信等を通して、基礎学力の向上を目指す。	C	B		
	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	インスタグラムの更新を月に4回以上実施している。	○日常的な教育活動の様子や部活動の活躍などを適宜更新し、広く情報を発信していく。	B	-	B		
ホームページの更新を月2回以上行っている。		○係から学校全体に呼びかけ、各学年や他の分掌、係と連携しながら情報を収集し発信していく。	C	-	C			
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	10 学校公開を定期的に行っていますか。	暁高校だよりを定期的に配付している。	○学校の取り組みや教育活動について作成した暁高校だよりを回覧板に入れることで地域の方々に情報を発信する。	B	-	B	Instagramやホームページ、暁だよりなどで日頃より地域への情報発信に尽力していただき有難い。新田暁高校の活躍が地域の活性化につながっている。また、今年度、地域振興にも参加していただき感謝している。引き続き幅広い情報発信に努めていただくとともに地域振興にも協力していただきたい。	
		学年別学校公開に参加する保護者が50%以上である。	○学年別懇談会と併せて学校公開日を設定し、保護者に広く参加してもらえるよう日程を組む。	C	-	C		
VI 教育デジタル化に努めていますか。	11 ICTを活用した指導を行っていますか。	ICTを活用した授業に60%の生徒が満足している。	○教科の特性に応じ、ICTを効果的に活用した授業を実施する。	A	A	A	ICTを活用した授業に満足している生徒が9割を超えたことから教科の特性に応じて今年度、多くの授業でICTが効果的に活用された。今後も有効な場面での活用を実践していく。また、生徒・保護者に向けた連絡やアンケート調査、学習課題など幅広く学習端末を活用することができた。次年度もスムーズに導入・活用できるように対応していく。	ICTに関しては、今後も効果的に活用していただき、生徒の深い学びにつなげてほしい。また、学習端末の導入・活用においても、今年度の取組を精査し、次年度以降につなげてほしい。
		12 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	HRの連絡等でICTを活用しているクラスが80%以上である。	○生徒や保護者への連絡にクラスルームやメール配信などを活用し、業務改善を図る。	B	-		
※各学校で必要に応じて評価対象を加える。								